



# 校長室だより

八代市立八代小学校  
校長 村嶋 博史



学校教育目標 「自ら学ぶ子供」

R6,10,22 No,26

八代小ホームページ

## 「優勝劣敗」～勝ちも負けも立派な勝ち、負けも負けも立派な負け～

只今この学年も、今週末に予定している「運動会」に向けて、最後の仕上げに入っています。

昨日、6年生に「運動会の練習はどうか？」と聞いてみたところ、「組体操の技に難しいものがあるが、苦勞しましたが、今はできるようになりました。」と力強い言葉が返ってきました。子供の多くは、「運動会」の練習に真面目かつ真剣に取り組み、その中で体力的な向上のみならず、「協調性、粘性・耐性、思いやりの心」を獲得するなど、かけがえのない体験をしています。これもご家庭での「頑張れ」や「頑張っているね」「頑張ったね」などの励ましの声かけの賜物だと思っています。

### 運動会で優勝を目指している子供たちへ

運動会で、白団も赤団も目指している「優勝」には、次のような意味があります。

「優勝」という言葉は「優勝劣敗」(ゆうしょうれっぱい)という四字熟語の一部を切り取ったもので、意味は「優れたものが勝ち残り、優れていないものが敗れ去る」というものです。言い換えれば、**優れたものが「優勝」**ということになります。

運動会では、どちらかが勝って、どちらかが負けます。でも、その勝ち負けの中には、「負けは負けでも立派な負け」があると思います。負けたとしても、全力を出し切って、一生懸命にやっ、負けとわかったら悔しさもあるでしょうが、さっと切り替えて、さわやかに勝ったチームをたたえる。そんな負け方をすることができたなら、それはもう「優れた負け」と言えるでしょう。優勝劣敗という言葉で言うならば、優れたものとして残っていくものです。つまり、優勝です。負けても優勝なのです。

反対に、「勝ちも勝ちでも恥ずかしい勝ち」というものがあります。勝ったとしても、ふざけていて本気を出さなかったり、勝負の後で礼儀正しくなかったり、負けたチームの健闘を讃えなかったりしたら、それは「**恥ずかしい勝ち**」と言えるでしょう。優勝劣敗という言葉で言うならば、優れていないものとして、忘れ去られていくものです。つまり、優勝ではありません。

みなさんには、「勝ちも勝ちでも立派な勝ち」、「負けは負けでも立派な負け」を目指してもらいたい。そして全員が、「優れたもの、いわゆる『優勝』」を手にしてほしいと思っています。



昨年度の運動会から

保護者の皆様、地域の皆様、是非運動会にお出でいただき、子供たちの成長をご覧ください。